

# 行政の窓



## 平成26年 特用林産統計について



### 【特用林産物生産額】

道内での平成26年の特用林産物総生産額（推計）は、約124億円（対前年比98.7%）となっています。乾・生しいたけ、まいたけ、なめこの生産量の減少、山菜類の生産量の減少が主な要因となっています。

### 【きのこ類の生産動向】

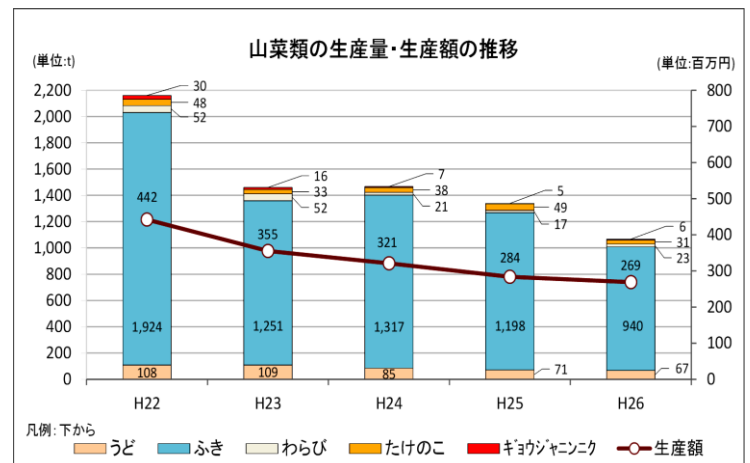
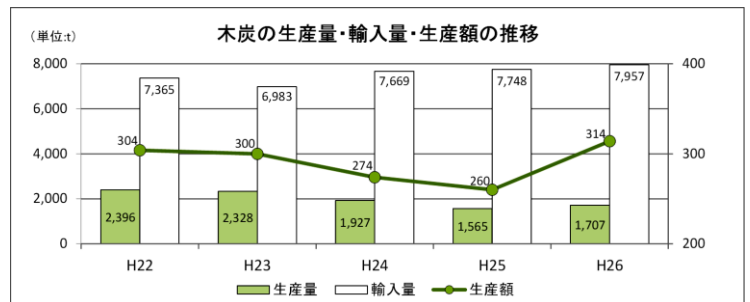
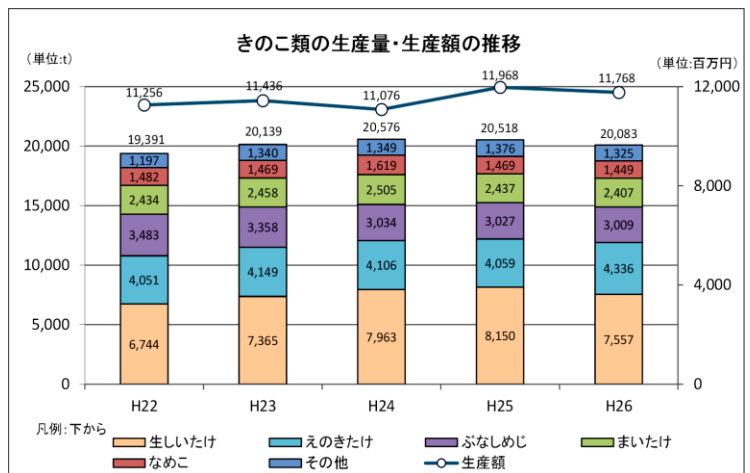
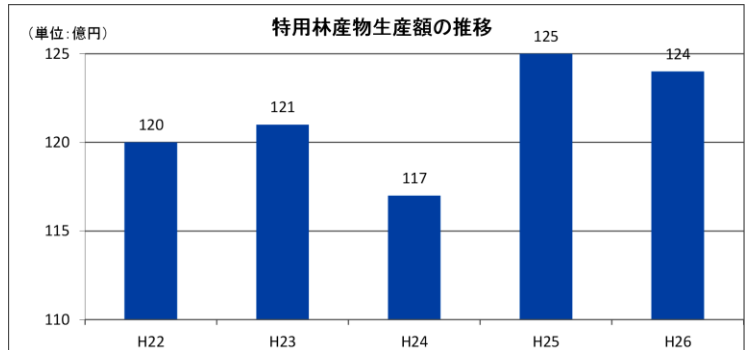
平成26年の生産額（推計）は約118億円（対前年比98.3%）、生産量は20,083 t（同97.9%）となっています。このうち、道内で最も生産者の多い「生しいたけ」は、原木、菌床あわせて生産額が約59億円（対前年比94.0%）、生産量が7,557 t（同92.7%）と大きく減少しています。栽培形態では、菌床栽培の生産量が96.8%を占めます。その他の主なきのこ生産量では、まいたけ2,407 t（対前年比98.8%）などは減少し、えのきたけ4,336 t（対前年比106.8%）が増加しています。

### 【木炭の生産動向】

平成26年の生産額は314百万円（対前年比120.9%）、生産量は1,707 t（同109.1%）となっています。また、輸入量は昨年に続き増加し7,957 t（対前年比102.7%）となっています。

### 【主な山菜類の生産動向】

平成26年の生産額は269百万円（対前年比94.7%）、生産量は1,066 t（同79.6%）と減少しました。道内における山菜類の生産は、天然物の採取が中心となっており、生産量の増減は、その年の天候に左右される特徴があります。



(水産林務部林務局林業木材課経営支援グループ)